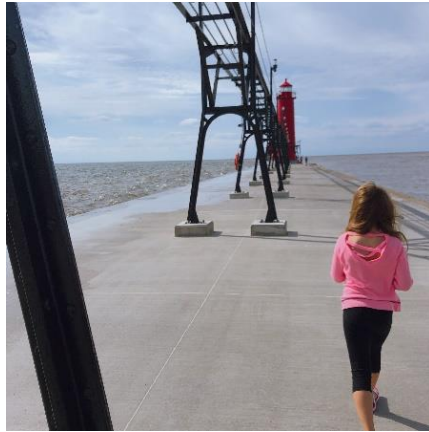


留学だより No,8 From MICHIGAN USA 2020.03

皆さま、こんにちは。

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響で、3月25日に緊急帰国しました。2週間の自宅待機を経て、小石川の始業式には参加出来ないまま、外出自粛中です。

今回は、帰国前後のアメリカの様子をお伝えします。



（左）夏にミシガン湖の灯台まで散歩。8歳のいとこと。

（右）冬のミシガン湖の夕日。同じ岸辺が雪で覆われています。

2月末の日本の休校から2週間遅れて、ミシガン州でも幼稚園から高校まで、一斉閉鎖されました。

3月12日、ちょうど公欠を取って、ドラマの練習で舞台裏に居た時、校内アナウンスがかかり、周りが静まり返りました。すぐに、カフェテリアやトイレの前に消毒液が設置され、翌日には3週間の予定で（実際にはさらに延長される）休校が始まりました。その頃には同じ高校に留学に来ていたヨーロッパ圏からの留学生が次々と帰国し、その後東京都から次世代生も帰国準備をするよう通知を受けました。

休校中に帰国が決まり、友達や先生や地域のお世話になった人達も自宅待機が基本のため、挨拶もなかなか出来ないまま、バタバタと帰り支度をしました。そんな中、友人達が荷造りを手伝いに来てくれ、いつか日本で会おうねと約束してお別れしました。



（左）下校後、マシュマロとたき火を囲んでパーティー。

（右）ロックダウン直前、何とか本番が実現した3つ目の劇。メンバーで打ち上げ。

空港そばの親戚宅に前泊をしている夜、テレビで、ミシガン州内の外出禁止令（ロックダウン）が伝えられました。同時に、家族全員のスマホから警報音が鳴り響き、ホストも日常とは明らかに違う事態に緊張が流れていました。そこで、乗り継ぐはずの便の欠航が次々決まり、当日朝になっても乗る便が決まっていないうまま、そばの空港から別の空港までバスで移動し、そこから出国…という展開になりました。引率予定の次世代の先生方も、日本からアメリカに入国できず、私達自身で現地スタッフとラインやメールで連絡をとりながら、次世代生達 15 人でまとまり帰国しました。成田行きの便が減った影響で、在米日本人達で満席でした。日本到着から 8 時間後には、アメリカから日本への入国制限も始まり、ぎりぎり対象ではなかったものの、念のため 2 週間の自宅待機をして過ごしました。

予測できない緊急事態の中、次世代生の安全を全力で守ってくださった日米の多くの方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

数名だったミシガン州の感染者数は、その 2 週間で日本全体の感染者数を超え、1 か月後には、全米の中でもニューヨークに次ぐ勢いで広がっています。



（左）バイオリンを弾く友人とデュエットコンテストに参加。そのとき頂いたメダルです。

（真ん中）黒は現地で借りた学校用 PC（オンライン授業で使われる）。白は日本の PC。

（右）-20 度の屋外…濡れタオルがたった五時間で凍ります！

今回の事態で、イベント等の延期や中止を経験された方が多くいると思いますが、アメリカでも同様でした。当初は 50 人以上の集会を禁じられる等の緩やかだった制限が、ロックダウンから一気に制限が厳しくなり、元の生活が立ち行かなくなっています。

今年度 6 月末まで学校の休校が決まり、さらに高校生にとって一大イベントであるプロム（アメリカの高校で学年末にあるダンスパーティー）も中止になり、ずっと楽しみにしていた皆は、とてもショックを受けています。成績優秀者の表彰式にも招待して頂いたのですが、早期帰国のため、ホストが代理で対応してくれることになりました。6 月末予定だった高校三年生の卒業式は、角帽子とガウンの購入は求められていますが、開催については未定とされています。

ほとんどの人がルールを守っている印象ですが、4 月 15 日、ミシガン州議会の周りでは、「ウイルスより経済が心配だ」「仕事を返して」と、4000 人規模のデモも起き、早期の対策が求められています。

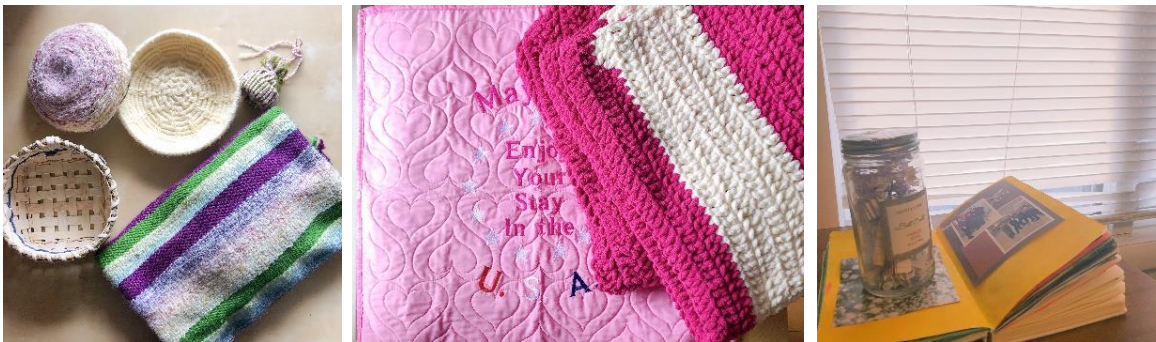
休校措置を受けてから、Sturgis High School でもオンライン授業が採用されることになりました。既に配布されていた一人一台の学校用パソコンを使って家庭でオンライン授業を受ける環境を作れるよう、保護者会が行われました。また学校の Google アカウントを通して、先生方と生徒はいつでもメール連絡を取りあえるようになっており、休校中も先生方が課題の質問に真剣に向き合っていました。

学校や町は、ピザを食べる前に手を消毒したり、ハグをせずに肘をくっつけて挨拶したりと、それまで見たことのなかった行動に変化していました。テレビの情報番組では、日本では予防でマスクをし、室内で靴を脱ぐ、と日本の衛生観念について紹介されていました。

Wash your hands と Stay Home はアメリカでも合言葉になっています。ミシガンの冬は厳しく、家での楽しい過ごし方がたくさんあって素敵だな、と思います。家族や友人を訪ねあうことが多く、一緒に料理をしたり、おしゃべりしたりしながら食事を楽しみます。ソファでブランケットにすっぽりくまって、暖かい飲み物やスナックを食べ、ボードゲームをしている人もいれば、つけっ放しのテレビで映画を見ている人もいます。暖炉のあるリビングや地下室、庭でのたき火など、家庭やメンバーによって場所も楽しみ方も様々です。

ハンドメイドをする事も多く、パイやケーキを焼いたり、編み物や刺繍をしたり、家具をDIYしたり、子どもたちと一緒にペットと遊んだり…あっという間に時間が過ぎていきます。アメリカでは事あるごとにプレゼント交換するのですが、その中で度々手作りの贈り物を頂き、費やしてくれた時間に温かさを感じました。

また長い冬を越すために、常日頃から保存食やトイレトペーパーが備蓄されていて、高い防災意識が安心を生むことを実感しました。



(左) 編み物の授業で制作した作品。長い冬を家の中で楽しむ文化が根付いています。

(真ん中) 曾祖母が編んでくれたブランケット、彼女の農園の常連さんが作ってくれた名前入りタペストリー。

(右) 帰国が決まった後に友人が作ってくれた、瓶詰の寄せ書きとアルバム。

2020年11月の大統領選に向け動きが盛り上がりつつありました。ミシガン州は「ラストベルト地帯」と呼ばれ、選挙戦の勝敗を左右する可能性があるとして注目されています。休校前、予備選挙があり、ホストに投票所に連れて行ってもらいました。高校生の友人達や人気のある芸能人も「投票に行こう」とSNSで呼び掛けていて、大統領を自分達が選ぶという行動が身近な様子でした。



(左) Youth in Government の議長インタビュー。偶然にも同じ学校の高3の友人が今年の議長でした。

(右) 州会議事堂の一室で、新聞記事の執筆中。政治を身近に感じた機会でした。

予定より三か月早い帰国となりましたが、この七か月間はどの瞬間を切り取っても思い出深いです。あらゆる形で私を支えて下さった小石川の指田先生・山内先生をはじめとする先生方・先輩・友人、アメリカでの日々を彩ってくれた Mr. Larr をはじめとする先生方や友人、そして家族に、心から感謝します。



(左) 楽しい時も辛い時も、常に分かち合った次世代同期。(2019年8月)

(右) 暖かく送り出してくれた11期の皆。ありがとう! :) (2019年7月)

最前線で未知の感染症の終息に向けて全力で戦って下さっている方々、社会を支えて下さっている方々に感謝しています。世界が再び元気になることを、そして皆さまの健康を、心より祈っています。

今回の留学だよりが最後となります。7か月間お付き合いいただき、ありがとうございました。

田中